



昭和十五年

七月

母の時局認識

今は大變な世界です。僅か數ヶ月の間に、幾つもの國が、その領土を失ひ、その國首が他國に逃れ、また、きのふまでの敵に降服する。更に數日の間に、堂々たる一等國の首都が敵軍へ無抵抗で明け渡され、盟邦への依存から共同の敵への單獨講和さへ餘儀ないことゝされる。古い歴史の本にでも讀むことが、こんな大きな變動が、今日の前に行はれてゐるのです。我國はそれらの蹶亂の舞臺から遠い東洋にあつて、撃ちあふ大砲の音も、空中に追ひかけあふ飛行機の爆音も、互に押し迫まる戦車の地ひゞきも聞えない

のですけれども、それは所謂地のはてのこと、所謂對岸のことでは決してありません。

自分としての大きな仕事を支那でしてゐながら、かうした世界の變動に、一刻々々直面してゐるのが、今の我國です。即ち今のわれ々です。そして、その中で我子の指導に當つてゐるのが、皆さん方です。その、我子の指導は時局の認識を離れては出来ません。

政治家や教育家に必要な如く、時局認識は母に最も必要です。そのために、あなたは常に、さういふ工夫をしてゐますか。

母の讀みもの

新聞

わざ／＼おすゝめするのも可笑しいやうな譯ですが、お母さま方に、毎日の新聞をよく讀んで頂きたい。此の時局下で、朝夕の新聞とラヂオのニュースは、苟も時局のことを按ずるものにとつて、最も關心の深い筈のものです。苟も時局下に我子を教育する母として、その關心は平時の新聞とは比較にもなりません。

先づ皇室の御事。國內の公の問題、支那事變の進展。ヨーロッパ戦局の目まぐるしい動き。その記事は一つ残らず目を通さずにゐられませぬ。殊に事變やヨーロッパのことは地圖を見ながらしつかり知らなければならぬし、解説や論文によつて、その一貫した情勢に通じることが肝要です。母よ新聞を讀めです。